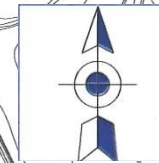


## 第32回 北勢線の魅力を探る

# 六把野井水と自噴井

麻生田駅－六把野頭首工－麻生田自噴井2個－麻生神社－上笠田城跡－下笠田八幡神社－  
めがね橋・ねじり橋－吉備川掛樋－北金井自噴井2個－了雲寺

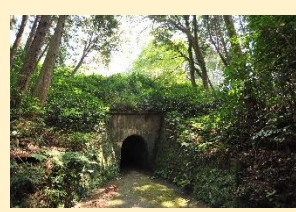


六把野頭首工



北勢線

洞門口



麻生田駅



萬笑院



麻績塚古墳群



麻生神社



麻生田  
自噴井

麻生田  
自噴井

山田川橋梁

500m

### 六把野井水

今から380年ほど前、桑名藩最初の土木工事として六把野井水の工事が始まり、麻生神社より員弁川の水を水下十三か村に送ったと伝えられている。  
上笠田村の大庄屋二井家の呼びかけにより、萬笑院の中興の祖、文華和尚の尽力もあり、難工事でしたが、約35年の歳月を経て完了した。  
380年経った現在でも、260町歩の田んぼに水を送り続けている。

### 六把野頭首工

昭和 41 年完成。河床が低下し自然取入れが困難となり近年においては 500～800m 上流まで瀬掘していたため、改修時に 682m上流に設置。現在ここから麻生神社まで 約 100mは暗渠となっている。

### 麻生田自噴井

自噴井とは特殊な地質構造から地下水が自動的に噴き出してくる井戸のことで、1年 365 日 24 時間(年中水温が一定なので、夏は冷たく、冬は温かく感じる)絶え間なく自噴して(湧き続けて)いる。なぜ自噴するかは、午後の学習会で解説予定。  
他地区のほとんどの自噴井は個人所有が多いが、北勢町麻生田地区では隣同士で構成する組で共同して大規模な自噴井を掘り、大型の貯蔵水槽に貯めて各戸の台所まで給水していた。第4組の水槽(2つの濾過槽)からは12軒に、第5組の水槽(高層のタンク)からは8軒に給水されている。

### 麻生神社

麻生神社は麻生田地区(330戸)の氏神さんで縄文時代の宗教的遺物と言われる〔石棒〕が六反(久保院近く)で出土し当神社の所蔵品になっている。  
江戸期桑名藩領となり当神社下の員弁川に六把野井水の取水口(頭首工)が設けられ水下13か村から守り神として崇敬され、神社の大幟一対は古くなると組合から贈られるのが慣わしで、嘉永 4 年 9 月石柱(御神燈)を建て雨乞いの神事がたびたび行われたそうで往事が偲ばれる。

### 山田川サイホン

山田川で井水は逆サイホン式(伏せ越)になって川の下を潜って対岸に繋がっている。  
約60年前の昭和の改修工事までは川を堰き止め水を送っていた。





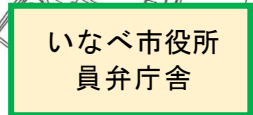
上笠田城跡



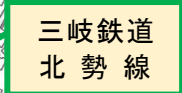
八幡神社



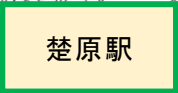
ねじり橋



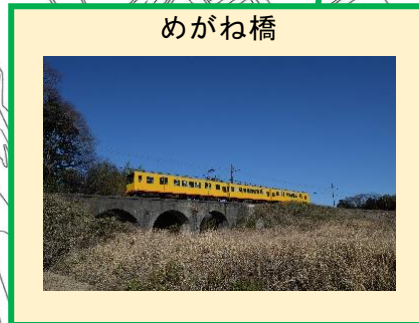
いなべ市役所  
員弁庁舎



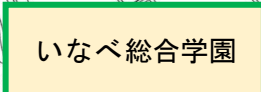
三岐鉄道  
北勢線



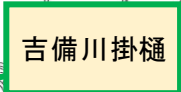
楚原駅



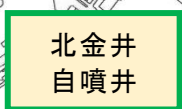
めがね橋



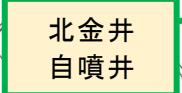
いなべ総合学園



吉備川掛樋



北金井  
自噴井



北金井  
自噴井



了雲寺

### 上笠田城跡

永禄年中に、上笠田城を守っていた飯田佐衛門尉が、織田信長の侵攻の際に滅ぼされた。寛永年間(1624-36)に六把野井水路の掘割により城跡は分断された。現在西端頂上に城山稲荷大明神が祀られている。

### 八幡神社(下笠田)

天照大神は笠田御厨神明社の祭神で「神鳳抄」に「笠田御厨上三町各三石、6月、9月、12月」とあり、旧字名の神田、伊勢田、大宮田、神地田、神明田、上分田、堂の前、神代淵は御厨田の名称が残ったものといわれている。明治41年(1908)に火産霊社を合祀する。

### ねじり橋・めがね橋

楚原駅と旧上笠田駅間にある「ねじり橋」の正式名称は「六把野井水拱橋」といい、橋の下を六把野井水が斜めに交差しているため、コンクリートブロックがねじれたように積まれている。大正5年(1916)7月に竣工したこの橋は、同じ時期、明智川に架けられたコンクリートブロック造りの「めがね橋」と共に、久米村坂井の郡竹治郎が工事を請け負い、完成させた。土木史研究委員会編の『日本の近代土木遺産―現存する重要な土木構造物2000選』に選ばれ、ねじり橋はランクA、めがね橋はランクBと評価されている。

### 北金井自噴井

員弁町北金井地区の自噴井は個人所有のものが4つ、南隣の西方地区にも2つが存在している。これらの自噴井は水量豊かですが鉄分の含有率が高く、いわゆる赤ソブを多く噴出し、その排水路は赤茶けて変色している。まさに「北金井」という地名は、金属(鉄分)を多く含む井戸であることを表しているものと思われる。(大安町南金井地区にも自噴井が多く存在し、同様に赤ソブの井戸が多い)。

### 了雲寺

真宗大谷派で、本尊は阿弥陀如来です。正安2年(1300)岐阜県海津郡吉里村(現海津市)成戸で了善により開基、はじめ天台宗でしたが、のち真宗となった。明治28年(1895)木曾三川分水工事に伴う木曾・長良両河川改修工事のため、立ち退きを迫られて、明治29年にこの地に移転した。